

グリーンサークル35号

クローズアップ

活動団体紹介

講座紹介

多摩市みどりのかわら版

長谷川 陽子

八ヶ岳「林業教室(体験林業)」

多摩川サマーキャンプ2019

長谷川 哲哉



リンドウ

～クローズアップ～ 手をつないで、そして広がって

恵泉女学園大学 長谷川 陽子

恵泉女学園は1929年の創立以来、創立者の河井先生や多くの方々の熱い思いや、支えにより、時代ごとに場所や形を変えて「恵泉の園芸」が引き継がれてきました。また、2005年には伊勢原での園芸教育と多摩市にある大学の園芸教育が融和しました。多摩キャンパスには、草花が彩るガーデンや育苗等をおこなうガラス温室、7000㎡の教育農場や山を切り開いてつくった自然観察林等があり、様々な園芸活動をおこなっています。

2011年、多摩市立グリーンライブセンターは、多摩市、多摩市グリーンボランティア連絡会、恵泉女学園大学の三者による協働運営がスタートしました。

本学は、ガーデンや温室の管理、講座の開設やイベントの開催等を通して、市民へのみどりの普及を目指す役割を担うこととなりました。

運営経費が以前の半分となった中、どのようにしたら機能を継続させて市民の皆さんに楽しんでいただけるのか、スタートした当初は外での作業や事務作業等が追いつかず焦りを感じる毎日でした。しかし、大学の応援やスタッフ間の努力や工夫によって少しずつ潤いを感じるガーデンをお見せすることができてきているように思います。また、そのような私達に手を差し伸べて下さったボランティアの方々の温かい応援がなにより力になり、急激にガーデンの質が高まりました。

グリーンライブセンターを担当することになってから、改めて多摩市のみどりに対する想いを知ることになりました。緑地面積が多いこと、その緑に安らぎを感じている住民が多いこと、ライフスタイルの中に緑をとり入れている方が多く、それを楽しみ、そのことを誇りに思っている方が多いこと。グリーンボランティア活動が盛んなことがその象徴だと思います。体を動かすことをいとわず、むしろそれを楽しみながら汗を仲間と流すボランティアの皆さんのお姿は、明るく、晴れ晴れとしていて、こちらもさわやかな気分にさせていただいています。私は多摩市の緑を楽しみながら提供する仲間の一員だと勝手に思っています。

今後は、多摩センターの地に場を授かった「恵泉の園芸」がさらに社会的な想いの場に貢献することを目指し、また、人と自然が共生する街づくりのため、グリーンライブセンターが市民活動の拠点となれるようグリーンボランティア連絡会の皆さんとさらに連携をすすめてまいりたいと思っております。

河井道先生のお言葉「どこにあってもなくてはならない人におなりなさい」。どんな所であっても、どんな環境であっても、どんな状況であっても、自分らしさを保ち、そこで自分らしい花を咲かせて人のために尽くしなさいという言葉をいつも胸に、グリーンライブセンターに思いを寄せて下さる方々との絆をこれまで以上に深めたい所存です。



ライブガーデンの手入れをする



季節折々のセンスが光ります

～活動団体紹介～

八ヶ岳「林業教室（体験林業）」

フレンドツリーサポーターズ（FTS） 小野 令

東京都多摩市は、南信森林管理署とともに「多摩市民の森・フレンドツリー」として、遊々の森を八ヶ岳山麓の西岳国有林に置いているが、このたび多摩市小学6年生、全16校に対して行われている「林業教室（体験林業）」を参観させてもらう機会を得ましたので、報告させていただきます。

「遊々の森」は林野庁と協定を結ぶ国民参加の森づくりのひとつで、学校等のさまざまな体験活動や学習活動を行うフィールドとして国有林を継続的に利用できるようにする制度です。多摩市民の森では、昭和57年に提案され、それから37年、遊々の森としては14年、途切れることなく現在も続いています。

1. 授業概要

日時：2019年6月11日（火曜）晴れ（梅雨の合間）22℃

場所：多摩市民の森（フレンドツリー）

対象：多摩市立豊ヶ丘小学校6年生2クラス

講師：多摩市少年自然の家 五味さん、若林さん

正指導員：プロの林業家2名、林野庁2名、自然の家関係者4名

8:30 朝食後、着替えてヘルメット、手袋装着の上、出発する。五味さんによる虫よけスプレーの正しい使い方や、雨あがりでの虫の発生への注意があった。

9:30 先月、フレンドツリーサポーターズ（FTS）が製作したカラマツのベンチに生徒が座り、早速若林さんからの「林業教室」開始。国有林の説明、カラマツ林の特性と成り立ち、下草刈り、除伐、間伐の必要性など分かり易く実践的な話があった。また、かぶれやすいウルシに触るな、と注意喚起。

10:00 約60名が8班に分かれ、各7～8名が正副2名の指導員のもとで間伐体験。1本を1時間かけ、伐倒周囲の片付け、安全確保から、手切りでの受け口作成、伐倒、玉切り、運搬までを行った。太さ12～

15cm程度の真っすぐで掛かり木にならないカラマツが対象。

11:15「林業教室」後半。森林の必要性についての講義。切った間伐材をペレット工場に搬送して有効利用していることなどの説明。

11:45 終了。自然の家に戻って昼食。

2. 「林業教室」感想

針葉樹であるカラマツ林の育成について、大変分かり易い説明であった。特に、生徒たちを木や草に見立てて下草刈りや除伐、間伐の必要性を説明していたのは参加意識を高めるのに有効と思った。また、鹿の角や、イノシシの骨など、この場所で生息していることを想像しながら実物に触れてもらっていた。青空で鳴くエゾハルゼミについても臨場感あふれる説明でよかった。

3. 伐倒体験と安全管理について

伐倒体験は子供たちにとって得難い経験であり、おみやげに玉切りした材を大切に持ち帰れるのは記念になる。安全管理面では人数的には十分な対応であり、児童に対しての安全はよく配慮されていると思った。看護師の方が現場ですぐに対応されるので安心である。6年生にもなると、注意事項をきちんと守れ、集団行動も問題ないと大変感心した。

問題なのは、児童以外の周囲の大人たちであり、他の学校の時、記録写真を撮影したい学校関係者が、伐倒エリアに入って困った、ということもあったようだ。

多人数が参加するイベント的な場所では、事前にくら注意を促していても、予測のつかない動きをしてしまう人がいるのでそのための監視者が必要である。

これだけ多人数の子供達相手に30年余、安全に継続されてきたことに大変敬服した。FTSも応援団（サポーターズ）としてこれからも微力を尽くしたい。



FTSの紹介



手鋸で伐採、1.6mに玉切りした材の運び出し

～講座紹介～

2019 多摩川源流体験サマーキャンプ

多摩市水辺の楽校運営協議会 西 厚

小中学生の夏休み最初の週に毎年実施している「多摩川源流体験サマーキャンプ」は参加20名スタッフ8名で行って来ました。ただ、天候不順で二泊三日の計画は現地の状況から安全第一を考慮し一泊二日にやむなく短縮して帰りました。

7:00 聖蹟桜ヶ丘駅へ集合。大きい荷物は車便、参加者は京王線分倍河原乗換 JR 立川まで通勤ラッシュを体験し、青梅線に入ると車窓はのどかな景色にかわって会話がはずむ。9:20 奥多摩駅へ到着。

予約したマイクロバスに乗り、車窓から「奥多摩湖」をみて小菅村へ向かう。「小菅村フィッシングセンター」につくと、山の天気は変わりやすく、夕立をさけるため早めの昼食をとり、小菅川溪流のぼりの準備、着替えを行い、バスへ乗車する。細い山道・杉林の中、高度を上げ、30分程度で到着した。

現地で源流こすげスタッフ3名と一緒にライフジャケット・ヘルメットを装着し、準備体操・注意事項を聞き、一気に急坂を下り溪流にでる。川は木漏れ日程度で気温も低い。

流れも早く深いところを右へ左へと横切り、大きな岩にロープが4本下がって交互に持ち替え岩場をトラバース初体験する。全員通過！次は「おいらん淵」が待っていた。飛込みをするが、水温低く、数回で中止する。

急坂を登ってバスで着替え、スタッフにお礼と別れの挨拶し、一路寺子屋自然塾（泊まる所）へ向かう。大冒険を終えて、子どもたちは濡れた衣類を洗濯し、順次入浴し部屋で一呼吸置く。

スタッフは夕食（BBQ）の準備に掛かり、広場にドラム缶を半分にしたかまどを作って火おこしに入る。



今朝は全員早起きして、全身を使って溪流上りに挑戦したが、達成できたことは素晴らしく、思い出多い一日だったに違いない。お腹もすいただろう！鉄板で野菜・牛豚肉を焼き、食欲旺盛で次々食べつくす。食後広場で花火を楽しみスイカを食べて本日の予定は完了。食堂で今日一日の思い出を作文に書き、就寝する。

翌朝6:00 起床。ラジオ体操で始まり各自の体調確認し朝食を取る。天候は台風の影響で、バスは笠取山方面の道路は危険（バス会社・地元の情報）で急遽中止とし、本日帰ることを伝えた。子どもたちは予定していた登山と水干の一滴さらに3日目のニジマスのつかみ取りが出来ないことに不満顔。でも安全第一を優先に、LINEで各家庭へ連絡する。

急遽、寺子屋自然塾周辺の2時間程度の散策コースを管理人守重さんに案内してもらったこととした。毎年来ていたのに今回初めて案内してもらい「地元こんなところもあったのだ」と思い出を作ることが出来た。各部屋の清掃を全員手分けして、各自の荷物をまとめ、昼食をすませて、寺子屋自然塾にお礼と別れの挨拶をし、小菅物産館・道の駅で各自おみやげを買って、JR 上野原駅へ向かう。バスの運転手さんとお礼と別れを言って、中央線高尾駅経由聖蹟桜ヶ丘駅へ到着した。

一泊二日と短くなったが、小菅川溪流の思い出、長作の散策コースで新しい発見があったこと、登山と違って溪流のぼりに挑戦したのだ！というこの体験をどうかこれからの自信につなげて欲しい。

～多摩市みどりのかわら版～

グリーンライブセンターの次なる一歩に向けて

多摩市 環境部 公園緑地課長 長谷川 哲哉

今年度の4月から公園緑地課長に着任しました長谷川と申します。日頃より多摩市のみどりの保全活動、また、グリーンライブセンターの運営にご尽力・ご協力いただき、あらためて感謝申し上げます。

初顔なので少しだけ自己紹介させていただくと……、これまで、ごみ対策課や環境政策課での在籍が長く、引き続き、今度は公園緑地課で市の環境行政に携われることに大きなやりがいを感じております。プライベートでは、子育ての真っ只中におり、週末はほぼ市内の公園で子供たちと遊んでいます。実は、多摩中央公園のヘビーユーザーです。もちろんグリーンライブセンターもこれまでたびたび訪問させていただいております！

さて、そのグリーンライブセンターについて、同時に建設された多摩中央公園とあわせて改修を行っていくことはすでにご案内のとおりですが、この改修に向けて、現在、運営を担う「多摩市グリーンボランティア連絡会」・「恵泉女学園大学」・「市」の三者連携のなかで、大規模改修作業部会を立ち上げ、改修内容や改修後のあり方について検討を重ねているところです。建物自体はまだ躯体もしっかりしており、まだまだ長く使えますが、様々な設備の劣化が見られ、更新が必要となっています。また、あわせて重要なのが、ソフト面の充実です。現在の三者連携の良さを更に発揮し、多くの市民の方が訪れ、みどりに関わるきっかけをつくる機会を作るにはどのような活動・事業展開が必要か、作業部会では皆さん頭を悩ませつつも、議論が進



グリーンライブセンター連携推進協議会の風景

んでいます。私はこのことこそが、リニューアル後のグリーンライブセンターを担っていく原動力になると感じています。それぞれの立場から、考え・意見が異なることは多々あります。しかしながら、皆さん一人ひとりが、グリーンライブセンターの存在や役割を理解しており、より良くしていきたいという熱意を持っているからです。

多摩ニュータウン開発にあわせて誕生したグリーンライブセンターは、多くの方の努力によって、みどり豊かな多摩市において、みどりの文化醸成のための拠点として、重要な役割を担ってきました。そして、今後は、次の世代の方たちにも関わってってもらい、次代へ引き継いでいくことも重要と考えています。かく言う私もそのうちの一人であり、しっかりとその責任を果たしていくべく、精一杯励みます。今後ともどうぞよろしくお願ひ致します。

表紙の絵

「リンドウ」 絵・内城葉子

最近が多摩市中の雑木林では見かけなくなりました。たまに会おうとうれしくなります！

<プロフィール> 1949年東京生まれ。1986年国立科学博物館第2回植物画コンクール文部大臣奨励賞、1989年世界らん展ボタニカルアート部門ブルーリボン賞、英国王立園芸協会ロンドン・フラワーショーGold Medal 受賞など

<所属>日本ボタニカルアート協会、日本植物画倶楽部、どんぐり山を守る会代表

<著書>「鏡の中-俳句と植物画」共著、2005年新風舎。他、絵本や学習図鑑などに描画。雑木林などの活動を通じ、実際の木々や草花に触れることが細部に及ぶ精密な描写となり、植物本来の温もりを感じられる作品が特徴。

* 編集後記 *

夏のような初秋も過ぎ、ようやく秋本番となりました。空が高く、気持ちの良い季節ですね。「秋の七草」ハギ・キキョウ・クズ・フジバカマ・オミナエシ・オバナ・ナデシコですが、多摩の雑木林や遊歩道でもよく見られます。

オバナ＝ススキだということを、最近知りました。その姿が動物のしっぽに似ているからなのだそうです。

多摩市グリーンボランティア通信

グリーンサークル35号

発行日：2019年10月15日

編集・発行責任：

多摩市グリーンボランティア連絡会 事務局

〒206-0033 東京都多摩市落合2-35 多摩中央公園

多摩市立グリーンライブセンター内

電話 042-375-8716 FAX 042-375-0087

ホームページ <http://www.keisen.ac.jp/tg1c/>